



トマトキバガのトマト園場等への飛び込みや発生に注意しましょう！

茨城県病害虫防除所では、昨年 10/17 にトマトキバガが県内で初めてフェロモントラップに誘殺されたため、特殊報を発表しました。詳細につきましてはこちら ([tokusyur5-1.pdf \(pref.ibaraki.jp\)](http://tokusyur5-1.pdf(pref.ibaraki.jp))) を参照してください。

現在本種による農作物被害は確認されていませんが、3 月中旬からフェロモントラップ調査を行ったところ、成虫の誘殺は昨年よりも早い 9 月上旬から認められ、その後も昨年より多い誘殺を認めていることから、新たに**病害虫速報** ([sokuhour6-9.pdf \(pref.ibaraki.jp\)](http://sokuhour6-9.pdf(pref.ibaraki.jp))) を発表し注意を喚起しています。

トマトキバガは、小型の「ガ」で、トマト、ナス、ピーマン、バレイショ等のナス科作物が主な寄主植物です。園場内をよく見回り、本種の発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡してください。

形態の特徴

- (1) 成虫は、翅を閉じた静止時で体長 5 ～ 7 mm (前翅長約 5 mm、開張約 10 mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色で、翅頂下でえぐれる。(写真 1)
- (2) 終齢幼虫は、体長約 8 mm、体色は淡緑色～淡赤色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。(写真 1)



写真 1 トマトキバガ成虫(左・中)と終齢幼虫(右)

黒色横帯

被害の特徴

- (1) 茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の被害は、ハモグリバエ類の食害痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する。トマトキバガの食害部分は表面のみを残した薄皮の袋状になり、葉の裏面からでも透けて見える(写真 2)。
- (2) 果実では、幼虫が食入して内部を加害し、数 mm 程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する(写真 2)。

(写真 1、2 は、農林水産省植物防疫所原図)

(無断転載厳禁)



写真 2 トマトの被害

防除対策

- (1) 施設栽培では、開口部に目合い 0.8 mm 以下の防虫ネットを設置し、施設内への侵入を防ぐ。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- (2) 園場をよく観察し、初期の被害を見逃さないようにする。トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡する。
- (3) 被害葉や被害果は、園場から持ち出し、野外に放置せずに、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- (4) 園場での発生が認められた場合は、発生を拡大させないため、薬剤散布を行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

表 トマト、ミニトマトのトマトキバガに対する主な登録薬剤

(令和 6 年 10 月 22 日現在)

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※
アフーム乳剤	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	6
コテツフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	13
ディアナ SC	2,500～5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	5
フェニックス顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	28
プレオフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	UN

※:分類欄は、IRAC コードを記載。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。